

この資料に聖書的に背教的な内容は含まれていません。  
全ては神の言葉である聖書をよりどころとしています。



PDFの使い方:

- Ctrl + L で全画面表示。
- ↓↑キーでページを移動。
- Esc で終了。

『惑わされないように気を付けなさい。  
多くの者がわたしの名によってやって来て、  
「わたしがそれだ」とか、「その時が近づいた」  
とか言うからです。』 ルカ 21:8



- 宗教論争がある理由。
- 聖書の普遍原則と特有教理を分ける。
- 奴隷級が唯一の経路である根拠。
- 天的級と1935年の関係。
- 絶対的な教理と聖句の選択。
- マインドコントロールの特徴。

あなたは地球が平たいという本を沢山読まされたら  
地球が平たいと信じますか？

ウソの情報を読んでもそれが真理に反するのであれば  
惑わされたりすることはありません。

もし一世であるなら、あなたはもともと偽りの宗教からの  
教えの中に塩漬けにされていましたが、  
惑わされずに真理を見分けて今に至ります。  
それでもあなたは再び偽りの情報に惑わされると思いますか？



あなたは地球が平たいとってしまうタイプですか？  
そのような確実性のない真理になぜ命を張れますか？

この資料を検討する前にあなたの答えを用紙に書いてください。

- ①もし組織の教えと聖書の教えに違いがあったらあなたはどちらを選択しますか？
- ②聖書のいう背教者とはどのような人のことを指しますか？
- ③もし協会が「1914年解釈」は誤りであったと発表したらどう考えますか？  
1914年の根拠はなんですか？証拠を提出できますか？
- ④「奴隷級」が唯一の神の経路だという根拠はなんですか？  
天的級になれる条件はなんですか？客観的に天的級であることを証明できますか？
- ⑤天的級を証明できない場合、組織が唯一の真の組織であるという根拠はなんですか？
- ⑥「霊性の基準」を規定するのは聖書ですか？組織ですか？  
聖書と答えた方は個人の霊性の基準は本人の解釈に依存するという事でしょうか？  
組織と答えた方は出版物の助言を文字通り全てあてはめていますか？
- ⑦「あなたたは自分の理解に頼ってはならない」という聖句があります。  
ではあなたは誰の理解に頼って組織こそが真の組織であるという結論に達しましたか？



ものみの塔の真理とされる教義は強固な土台の上に積み立てられていますか？

- 唯一の真の宗教団体である。
- 1919年に他の宗教から選別された。
- 他の宗教は滅ぼされる。
- 地上への復活とハルマゲドン。
- 霊的イスラエルのみが救われる。
- 初穂である小さい群れのみが天に行く。
- 144,000人が集められた後に地上級が集められる。
- 真理を持っているので宣べ伝える義務がある。

↑  
全ての教義は正しい。

- 
- ①思慮深い奴隷級による霊的食物。
  - ②1914年の教義⇒1919年の選別。

この教義を受け入れられない者はサタンとバビロンに惑わされており、この教義から離れる者は背教者である。

## 宗教論争とは何か？

### ①宗教論争とは一言でいうと、『神の代理店契約としての利権争い』である。

(例：ものみの塔、カトリック、イスラム教等の組織は神と信者の仲介人である。)

- 神は一つの宗教にしか代表権を与えない。 ⇒ 独占契約
- 他の代理店(宗派)は神との契約でないので悪霊である。

### ②代理店主張の根拠は『特定の聖典に対する信仰』に基づく。

(例：特定の宗教の正当性は聖書、トーラ、仏教典、モルモン経典などに基づく教義。)

### ③宗派間の論争とは『聖典の解釈論の戦い』である。

(例：カトリック、プロテスタントより証人たちが聖書を正しく理解している。)

#### ■ 文字通りかかれていない事は全て解釈である。

「~のようである」「~という意味である」「~を表している」は全て事実ではなく解釈論である。  
同じ文章を読んで違った解釈の出る余地のあるものは事実とはいわない。

#### 検討する際の前提定義：

- A) 真理は不変である。
- B) 教理は理論的に説明できるものである。(でなければ盲信である)
- C) 聖書に文字通り書かれていない事は解釈である。
- D) 解釈は常に真理とは限らない。(不変でないから)

あなたの宗教の真理(信条)は不変ですか？

## 背教者とは？

他の信条を持つ「世の人々」を受けいえると主張する証人たちが、同じ信条を捨てた人だけは許せない。人を裁かず敵をも愛するように教えられているエホバの証人が唯一憎む存在。それが「背教者」。不道德、タバコによる排斥は一時的な弱さとみる。信仰が弱ってしまい「信じられなくなった」仲間も同情の目でみる。しかし「違うことを信じること」だけは許せない。なぜならそれは背教だからである。背教した者はサタンの虜である。だから最も恐れ侮蔑する。

### ■「聖書」のいう背教者の定義とは？

背教者とは... ■反キリスト ⇒ キリストを認めない人。  
■聖書の原則を捨てた人。

### ■エホバの証人がいう『背教者』とは？

聖書の真理とキリストの教えを捨てた者を指すのではなく、  
「エホバの証人の組織」に対して不具合な主張をする者である。

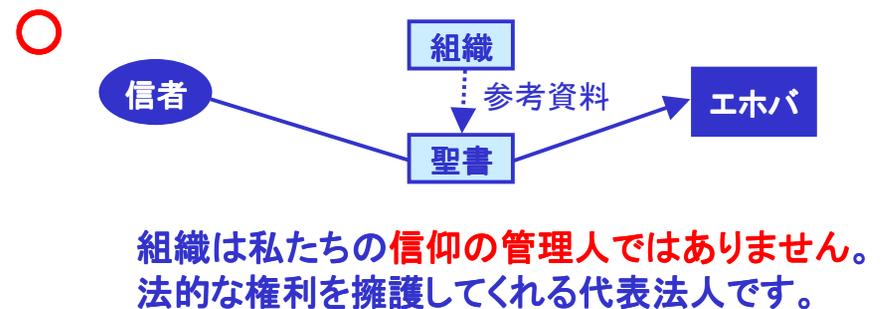
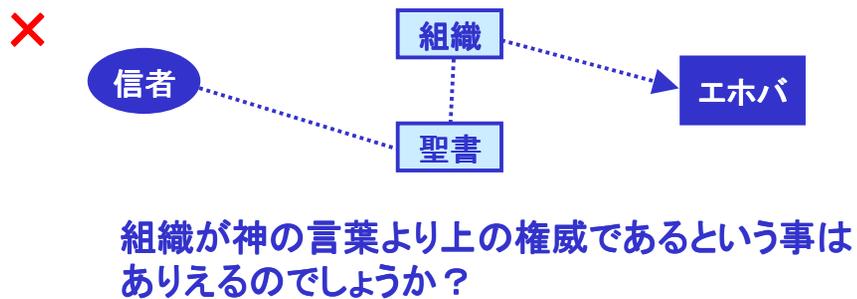
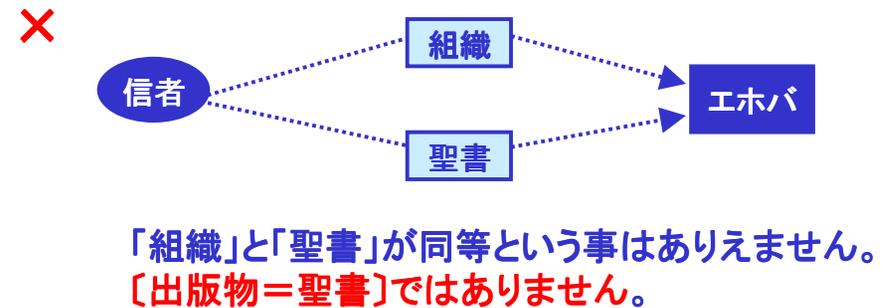
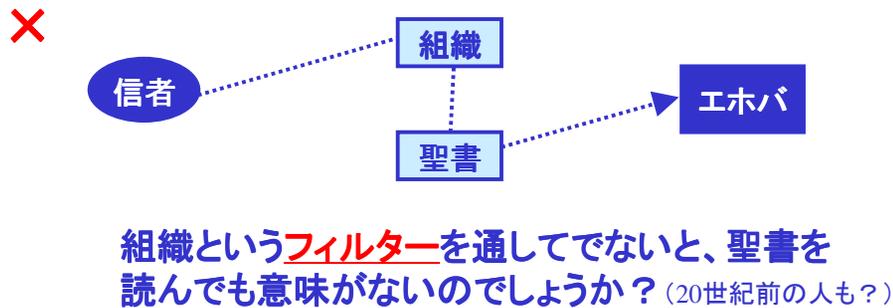
証人のいう「背教者」と聖書のいう「背教者」とは全く別の意味になっています。  
この資料は聖書の原則とキリストを否定するものではありません。

クリスチャンは特有の教団の教義よりも  
聖書を優先させるべきです。

組織への忠誠ではなくエホバへの忠誠が重要なのではないのでしょうか？

# 組織の位置づけ

「信者」と「エホバ」の間の経路を順番に線で結んでください:



# 真理の根拠とは？

たいていのエホバの証人はこのような答えをいいます：

「組織は聖書そのものだから」「世界中で述べ伝えているから」「仲間の間に愛があるから」「世界中で一致しているから」「油注がれた奴隷級だから」「創造者はいるから」「さわやかさをもたらすから」「偶像崇拝をしないから」

実はこれらはどれもエホバの証人が唯一の真の宗教を示す根拠とはなりません。まず話を整理しましょう...

## ■エホバの証人が真の宗教である根拠：

- ① 仲間の間に愛があるから。 ⇒ 特徴
- ② 世界中で宣べ伝えているから。 ⇒ 行動
- ③ 聖書を忠実に理解しているから。 ⇒ 教理

### X ①の「愛がある」は主観的見解です。

他の宗教団体も「互いに愛がある」と主張しています。新興宗教、軍隊、ヤクザの間にも仲間の絆は強いですが、従って愛があるというのは主張している者による主観的な主張です。主観は各人の視点による「主観論」です。したがって主観を巡る論争には答えができません。個人の経験・体感にもとづいた信条だからです。確かにイエスは「愛によって見分けられる」といいましたが、一般の未信者はJWをそうだとは見分けていません。

### X ②の「宣べ伝えている」は主観的見解です。

多分カトリックも世界中に教会を建てキリスト教を広めたと主張します。モルモンも同じです。今のエホバの証人たちがアフリカなどで首尾よく述べ伝えることができているのは、キリスト教世界による土台がすでに築かれていたからです（組織も認めています）。しかし、「ドアからドアの伝道」とは方法論であり、一番重要なのは「何を宣べ伝えているか」です。宣べ伝えている内容が間違いであれば意味がないからです。

### ○ ③の「聖書の理解」は客観的見解です。

この3点の中で一番重要かつ鍵となるのは「聖書の理解・解釈」=教理です。個人の視点による主観と違い、理論的に他人に証明することが可能だからです。全ての人々が客観的に調べて、証明し、合意できるのは客観的事実である教理のみです。

ここが議論の対象

証人の信条を理性による理解から説明できますか？

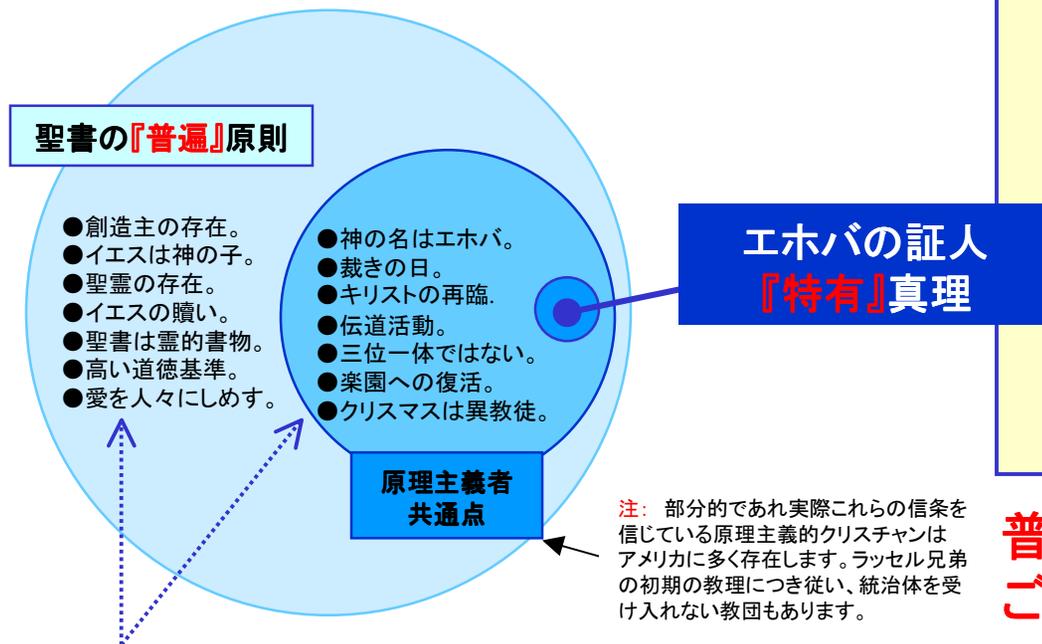
# 原則と教理の違い

まず最初にエホバの証人の信条を整理して分けて考える必要があります。

聖書に対する理解(解釈)が正しいという主張ですが、実際には他のキリスト教団体や背教者といわれている人たちもエホバの証人と変わらない信条を沢山もっています。実際ラッセル兄弟は多くを長老派(プロテスタント)から影響を受けました。

聖書にある普遍的な霊的原則と、組織を他の団体から分けている組織特有の教理を分けて考える必要があります。

## ■エホバの証人特有の教理(聖書の解釈)とは？



- 忠実で思慮深い**奴隷級**による経路。  
油そそがれた**天的級**
- 1914年** ⇒1919年にキリストによる任命。

出版物の解釈は全て真理である。  
奴隷級 = エホバの経路

証人たちの**聖書の解釈方法**は全て真理である。

証人たちは聖書を研究しているといいますが、実際には**出版物の解釈論を通じてのみ**しか聖書を理解する事がゆるされていせん。

普遍原則と特有教理を  
ごちゃ混ぜにして考えていませんか？

出版物の95%は霊的な普遍原則を扱っているので真理を語っています。したがって出版物全体を否定する必要はありません。多くの証人たちがいう「組織は感動する真理を提供してくれている」といいますが、多くは単なる普遍原則です。問題は5%の「JW特有の真理」です。JW特有の真理とはJWの特有の教理を指しています。

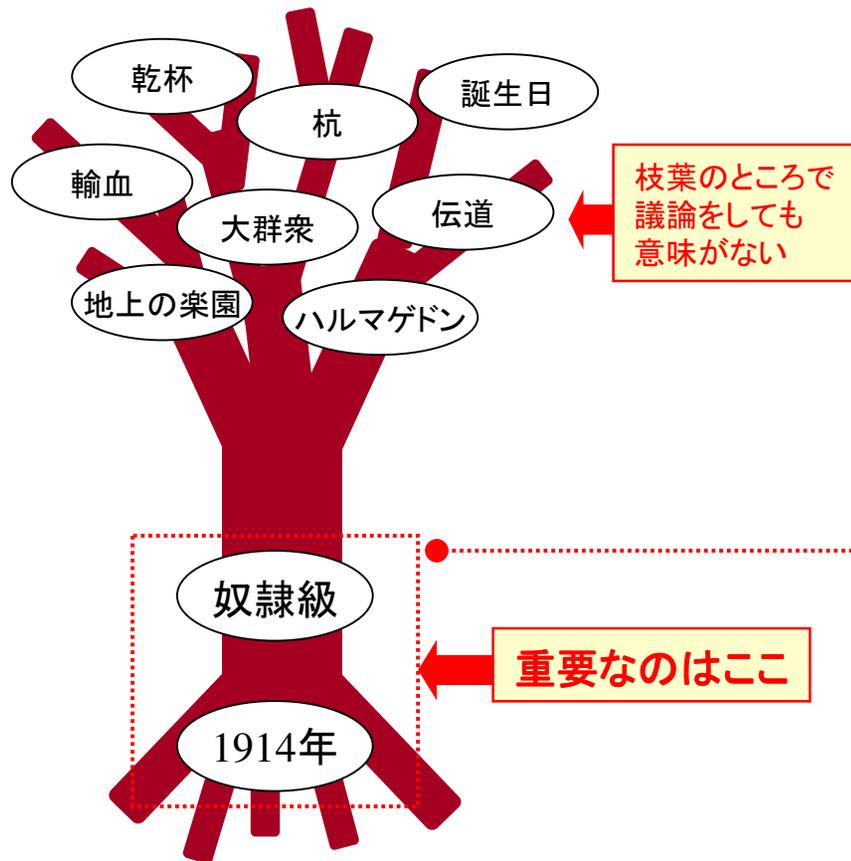
エホバの証人を特有なものとしているのはこの二つの教理に集約されます。

『奴隷級』 『1914年』

# 考察の焦点

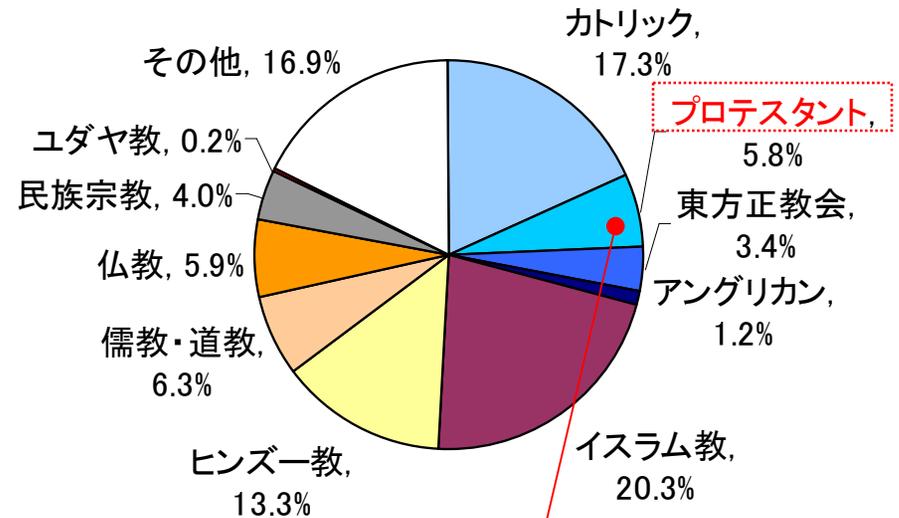
## ■ 議論の的を絞る。

多くの方が誕生日、乾杯、伝道方法、輸血などの教理の矛盾に関して議論をしますが、これらは神のご意志であるという前提なので意味をなしません。私たちが考察すべきなのは神のご意志を伝えていると主張する「1914年を根拠とした奴隷級」の正当性に関してのみです。



## 世界の宗教構成

キリスト教比率は世界人口の33%で21.3億人。



**証人たちの「選民意識」の強い信条:**  
60億人以上人類の中から、21億人以上のキリスト教国の中から、600万人のみが神からの導きを受けている。そして楽園で優先的に救われる権利を有しており、後の人々は全てサタンに惑わされており滅ぼされてしまう。

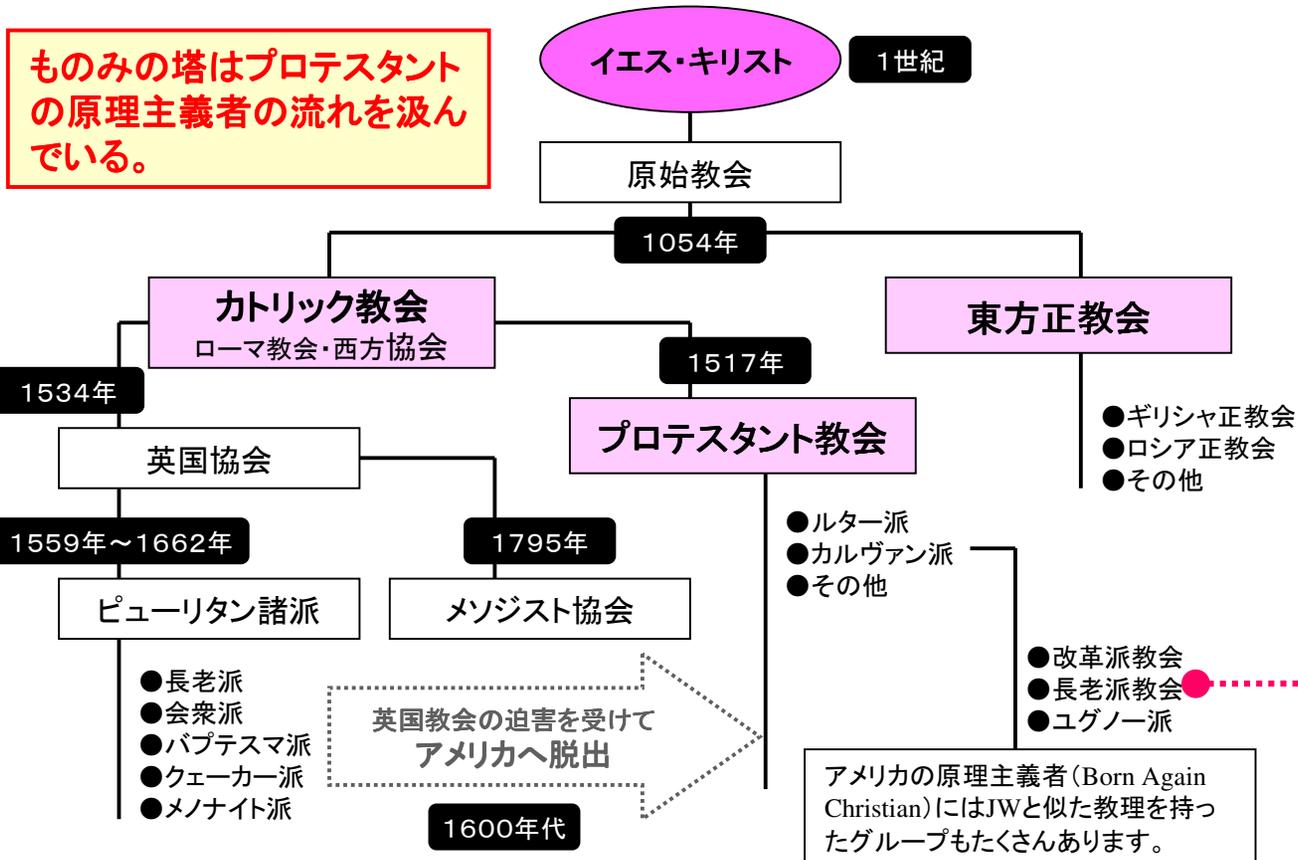
自分たちだけが優先的に救われるという傲慢な教理です。しかし啓示の預言どおりバビロンが滅ぼされる時、自分たちの宗教団体はそこに含まれていないという保証はどこにあるのでしょうか？証人たちは自分たちは全く独立した真の崇拝なので、他の全ての宗教をバビロンと定義してその中に含まれることを認めません。しかし実際には**プロテスタント原理主義者**として分類されます。

統治体が神に任命された奴隷級の根拠はなんですか？

# 根元はプロテスタント

組織は「真の宗教」だといって**他の教会とは全く関係ない**という独立性を強調しますが、どの組織にも必ず歴史の流れがあります。「ふれ告げる」の本にもラッセル兄弟が長老派のバーバーから1914年の予言解釈を教えてもらったことを書いています。アメリカはWASP (White Anglo Saxon Protestant) といわれアングロ系のプロテスタントである白人により歴史が始まりました。英国教会により迫害されたピューリタンは信仰の自由を得るためにメイフラワー号で出向しアメリカの東海岸のボストンに着きました。それでアメリカ東海岸は保守的なクリスチャンが多くいます。現代でも馬車にしか乗らないアーミッシュの村も(ハリソンフォードの映画「Witness」の舞台)東海岸です。宗教心よりもお金を目当てだった人たちは後にゴールドラッシュの際にカルフォルニアに流れました。したがって西海岸の方に自由奔放な人たちが多く、ヒッピーの発祥地ともなっています。ラッセル兄弟は宗教心の強い東海岸の人ですのでものみの塔もペンシルバニア州ではじまりました。興味深いことにものみの塔と信仰形態の近いモルモンは同じ時期に始まった「親戚である宗教」といわれていますが、モルモンは自分たちの地を求めてユタ州に集団移住しました。(参考:モルモン教徒によって始まったNuSkinやHerberLifeのマルチ商法の本部がユタ州にあり、セールス方法がJWの伝道活動に近いのは偶然ではありません。)

ものみの塔はプロテスタントの原理主義者の流れを汲んでいる。



**日本人に馴染みにくい理由:**  
エルサレム(1世紀)⇒ローマ・パチカン⇒プロテスタント⇒アメリカ(19世紀)という流れで真理は2000年間の長い月をかけて西洋文化の中でろ過されてきました。キリスト教とは何の縁もなかった仏教背景の日本人が数年間の研究だけではJWクリスチャンとなりきれない理由はここにあります。それでクリスチャン「らしく」あるために指針を求めるため、会衆にたくさんのルールを求めます。さらに霊的であるために開拓奉仕や特権といった**目に見える保証に頼る**ようになります。

ラッセル兄弟  
↓  
エホバの証人

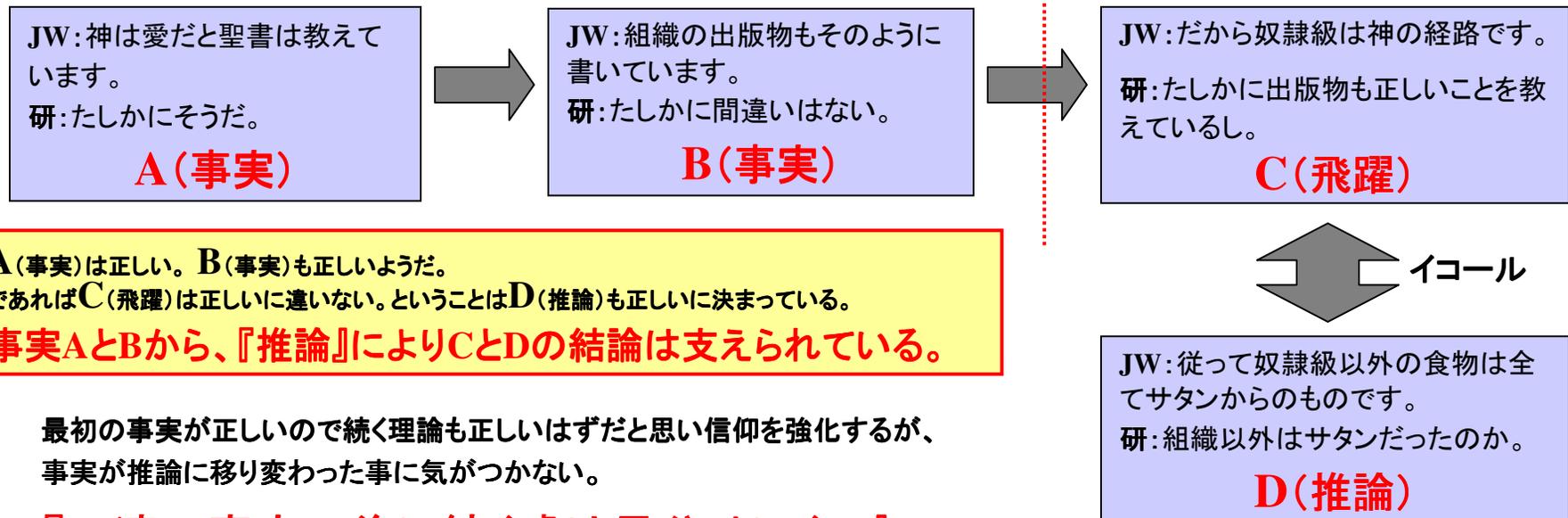
アメリカの原理主義者 (Born Again Christian) には JW と似た教理を持ったグループもたくさんあります。

# なぜ統治体が経路？

まず最初にあなた自身がなぜ統治体を信じているのかを再考慮する必要があります。

多くのクリスチャンは聖書の「普遍原則」と「証人特有の教理」をまぜて井勘定で「統治体は正しい」としています。これは研究の祭にこのような過程を通じて強化されます。例えば...

## ■最初の根拠が次の憶測を正当化する。



最初の事実が正しいので続く理論も正しいはずだと思い信仰を強化するが、事実が推論に移り変わった事に気がつかない。

## 『一連の真実の後に続く嘘は見分けにくい』

### ■『統治体=1914年』 この教理は表裏一体でワンセットです。

- ⇒ 1914年の予言の解釈が当たっているから統治体は「奴隷級」である。
- ⇒ 1914年を起点として1919年に統治体はエホバにより選ばれた。
- ⇒ 従って1914年の解釈が違うのであれば統治体の根拠はなくなってしまう。

■1914年に確信を持っていない信者は厳密には背教者です。

### ①パラレル論法 一つの雛形が自分たちに適用されると主張する。

(A)と(B)があるからといって双方に関係があるとは限らないのだが、組織は(A)=(B)だと主張する。

例：(A:モーセには民がいた)=(B:統治体にも会員組織がある) ⇒組織の必要性を強調

(A:イエスの例には意味がある)=(B:イエスの例は自分たちにあてはまる) ⇒奴隷級の例ばかり強調

(A:一世紀には会衆があった)=(B:現代の会衆はこの組織だけである) ⇒組織の根拠を主張

### ②一部証明論法 証明できる一部のみを論証し、全体が正しいと主張する。

証明可能な(A)だけを論証し、(A)～(Z)も全て事実であるはずだと主張する。

しかし実際には(A)が正しいからといって(B)～(Z)が全て正しいという保証はどこにもない。

例：(A:聖書には地球が丸いと書いてある)=(A～Z:聖書に書いてある内容は全て事実である)

(A:古代イスラエルは実在した)=(A～Z:聖書の歴史は全て正しいはずである)

(A:氷河期が過去にあった)=(A～Z:ノアの洪水も起こったはずなので、他の奇跡も同様であるはず)

### ③選択理論 矛盾する点は全て無視し、相対的に選択した事実を「絶対」だと主張。

相反する聖句を無視して、自分たちの教理は絶対的に正しいと主張する。

例：(主張:パウロは背教者を憎めといった)≠(矛盾:イエスは敵をも愛せといった)

(主張:聖句は地上への復活だといっている)≠(矛盾:パウロは天での復活を語っている)

(主張:救われるのは少数の選民である)≠(矛盾:エホバは無条件の愛であられる)

### ④過去の所有権 過去の歴史は自分たちのものだと主張する。

過去に存在した血統、系列、事実などを全て現在の自分たちと繋げてしまう。過去には日本軍が天皇の血統は自分たちに属すると主張し国を誘導した。ナチスは純粋な民族の血統は自分たちだけに属すると主張。

例：ユダヤ人はバベルの塔以前のエノクやアダムもユダヤ人でありヘブライ語をしゃべっていたと主張。

(実際にはバベルの塔の前にアダムたちがヘブライ語をしゃべっていた証拠はない。)

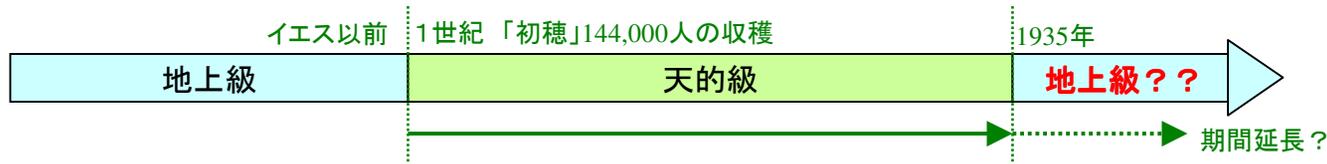
キリスト教国はユダヤ人が得ていた「選民権」が自分たちに移管されたと主張。

証人たちは、一世紀のクリスチャン組織もモーセの組織も自分たちの系統に属すると主張。

# 1935年問題

このページは2007年5月の教理変更のために無意味となりました。  
しかしこの時までには証人たちはこれこそが「天的級＝統治体」の  
根拠であると強く主張していました。

教理： 統治体は油注がれた奴隷級から選ばれる。この小さな群は144,000人枠でイエスの贖い以降にバプテスマを受けた人に適用される。彼らは人生において忠節を示したので見使いより高められ天へいく希望をもっている。



## ■油注がれた者の収穫は1935年に締め切られた。⇒ 1世紀にクリスチャンは5万人もいなかった？

1925年の記念式の参加者は90,434人。当時は二つのクラスの区別がなかったため、参加者の大半がパンとぶどう酒を授かったと考えられます。14,4000人の総数から引くとイエスの時から20世紀にいたるまで約5万人分の枠しか残らなくなってしまいます。1世紀に「地の果てまで」宣べつたえられたにもかかわらず5万人以下のクリスチャンしかいなかったのでしょうか？2000年の間、真のクリスチャンは5万人もいなかったのでしょうか？

## ■1935年以降の油注がれた者は脱落した前者の空席の補充。⇒ エホバは7%の人選ミスを行うのか？

現在組織には8000人以上の油そそがれた者たちがいますが、144,000人に対して7%にあたります。エホバがみ使いよりも高い位になる「忠実で思慮深い」者を選んだ時に7%の誤差があるのでしょうか？7%がサタンのように真理から離れるとはなんて忠実で思慮深くないのでしょうか。万能のエホバの人選基準は怪しいといえないでしょうか。

## ■統治体は奴隷級によって構成される。奴隷級は個人の自覚によってのみ聖霊により油注がれた事を知る。

⇒ 統治体は新しい成員を選定する時にどのように客観的にその人が天的級であることを証明するのか？  
(過去において実際に統治体で「背教者」扱いされた兄弟もいるので、なおさら重要な点である。)

## ■記念式で15歳の兄弟が象徴物に預かったら不自然である。なぜなら天的級はやがてみ使いより高い位につくので、エホバはその人の長い忠実な歩みをご覧になってから選ばれるからである。

⇒ 一般の目安で何歳ぐらいで表象物に預かれば自然なものであろうか？60歳以上？

## ■1935年以前には地上復活の教義は存在していない。バプテスマを受けた時点で自動的に天的級であった。

⇒ だとしたら1935年前は15歳でもバプテスマを受ければ天的級だったのだろうか？  
⇒ しかし15歳という短い人生でエホバに忠実さを証明できるものであろうか？それともそういう運命なのか？  
⇒ そうでなければ彼は15歳から60歳までの間、彼は何の希望を持っていたのであろうか？

もし「天的級」に根拠がなければ、  
奴隷級とその統治体の権威の根拠はどこにあるのでしょうか？

# 補充ではなく期間延長

## 塔5/1/2007 P30「読者からの質問」

1800年代の終わりと1931年にかけて、宣べ伝える業の主な目的は、キリストの体を構成する残りの者たちを集めることでした。1931年に聖書研究者たちは、エホバの証人という、聖書に基づく名称を採択し、「ものみの塔」誌(英語)、1933年11月15日号で、類まれなこの名称はマタイ20章1-16節のイエスのたとえ話で言われている「デナリ」である、という考えが示されました。そして、そのたとえ話の中の12時間は1919年から1931年までの12年間に相当する、と考えられました。その後何年もの間、天の王国への召しは1931年に終了し、キリストと共同の相続人となるよう1930年と1931年に召された人々が「最後の者」である、と思われていました。(マタイ20:6-8)しかし、1966年に理解が調整され、そのたとえ話は油そそがれた者として召されることの終わりとは関係がない、ということが明らかになりました。

1935年に、啓示7章9-15節の「大群衆」は「ほかの羊」、つまり地上の希望を抱くクリスチャンたちで構成されている、ということが分かりました。「終わりの日」に世界の舞台に登場し、一つの集団としてハルマゲドンを生き残る人々です。(ヨハネ10:16。テモテ第二3:1。啓示21:3,4)その年以降、人々を弟子とする業の主な目的は、大群衆を集め入れることに変わりました。そのため、特に1966年以後、天への召しは1935年に終わったと考えられるようになりました。1935年以降にバプテスマを受けた人のほとんどすべてが自分は地上の希望を抱いていると考えていたため、その説明は確かであるように思われました。それ以後に天の希望へと召された人は、不忠実になった油そそがれたクリスチャンの代わりに補充された人、と考えられました。

もし油そそがれた者の一人が悪行を悔い改めずに離れ落ちるなら、エホバはその人の代わりとなる別の人を召される、ということに疑問の余地はありません。(ローマ11:17-22)しかし、真の油そそがれた者で不忠実になった人の数は、多くはないと思われます。一方、時たつうちに、1935年以後にバプテスマを受けたクリスチャンの中にも、自分は天への希望を持っている、と霊によって証しされる人が出てきました。(ローマ8:16,17)したがって、天への希望を抱くようクリスチャンを召すことがいつ終わるかに関して、明確な時を述べることはできないように思われます。

もありません。むしろ謙遜な態度で、1世紀の油そそがれた男子の中にも長老や奉仕の僕として仕える資格のなかった人がいたことを思い起こします。(テサロニケ第一3:1-10,12,13。テトス1:5-9。ヤコブ3:1)

1935年問題を回避するために新しい見解が「読者からの質問」に掲載されました。本来これは研究記事に匹敵する重要な内容です。

### ■1935年前の証人たちは皆、天にいくと信じていた。 ⇒たんに地上復活の教理がなかっただけではないのか？

た。(ローマ8:16,17)したがって、天への希望を抱くようクリスチャンを召すことがいつ終わるかに関して、明確な時を述べることはできないように思われます。

グッドニュース！  
天的級を集める業がまだ完了しておらず、霊性が低くてもいいのであれば、あなたも天的級になれる可能性があります！

### ■1935年以降の信者は地上の希望を抱いていた。

⇒当時新しい信条の信者がでてきた証拠でもあるのだろうか？アンケートでもとったのであろうか。

### ■信仰の弱い天的級もいる。

⇒啓示の冒頭でイエスは信仰の弱い会衆を糾弾されたのではないだろうか？

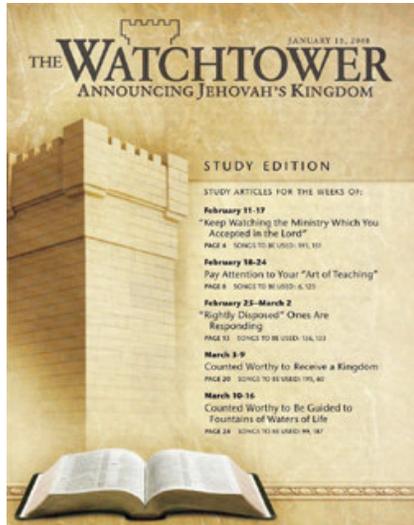
油そそがれたクリスチャンの中には、霊的に弱い人さえいたのです。(テサロニケ第一5:14) また姉妹た

今まで現在いる天的級は1935年に集め終わった14万4千人の「補充」だと教えられてきました。今回の新しい光は「補充」ではなく、集める期間そのものが「延長」されたという意味です。

「初穂」である天的級を刈り集める作業が終了していないのであれば、初穂の後につづく地上復活希望の信者を集める活動はまだはじまっていないのではないのでしょうか？

ではあなたは何の希望を信じているのでしょうか？

## 終わりは当面こない①



presence—have been rewarded accordingly. —Read 1 Thessalonians 4:15-17; Revelation 6: 9-11.

<sup>18</sup> Those of the anointed who still remain on earth are absolutely confident that if they remain faithful, they will soon receive the reward for their faithful course. Millions of other sheep, when contemplating the faith of their anointed brothers, agree with the words of the apostle Paul, who said of anointed brothers in Thessalonica: “We ourselves take pride in you among the congregations of God because of your endurance and faith in all your persecutions and the tribulations that you are bearing. This is a proof of the righteous judgment of God, leading to your

18. (a) Those of the anointed who still remain have what confidence? (b) How do those of the other sheep view their anointed Christian brothers?

being counted worthy of the kingdom of God, for which you are indeed suffering.” (2 Thess. 1:3-5) With the passing of the last member of the anointed from the earth, whenever that will happen, God’s heavenly government will be complete. What a cause for joy that will be—both in heaven and on earth!

塔08/1/15 P20

### Can You Explain?

- What did God reveal to Abraham that had a bearing on Judgment Day?
- Why was Abraham declared righteous?
- What does being declared righteous lead to for those of Abraham’s seed?
- What confidence do all Christians have?

2008年からものみの塔の研究記事は信者専用となり、世の人は見れなくなりました。雑誌がクローズドになってからさっそく二つの重要な教義の「すり替え」がありました。

### 古い光(2007年前)

- 1) 14万4千人は1935年で集め終わっていた。(後は補欠組)
- 2) 終わりは1914年から「世代(不特定な世の人々の時代)」以内に入る。

### 新しい光(2007年から)

- 1) 14万4千人を集める活動は終わっていない。(P23 16節)

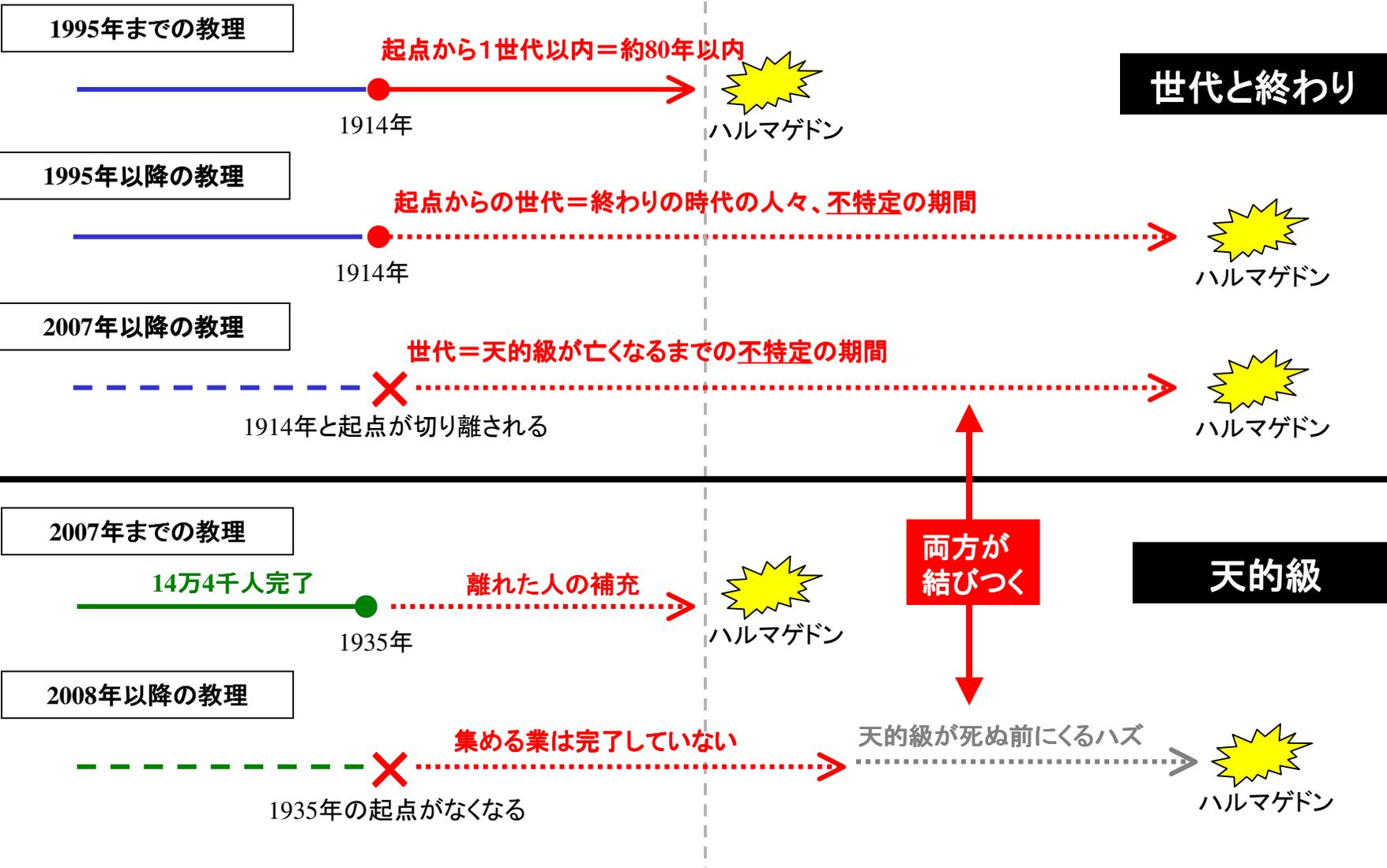
### 新しい光(2008年から)

- 2) 「世代(天的級)」が過ぎ去る前に終わりがくる。  
天的級は毎年増えています。しかも統治体も若返っています。したがって終わりは当面きません。

1914年とハルマゲドンがくる時期のリンクは切り離されています。1914年から一世代以内とかいった数え方はできなくなりました。起点がないためケツも見えません。

# 終わりは当面こない②

起点が無くなればケツも見えなくなります。



2007年前までは「1914年」と「1935年」を起点としてある程度「終わりが近い」と主張できたが、2008年の教理変更により「起点」が消滅し計算のしようがなくなる。

## 先入観による聖句の解釈

統治体とは「信者を二つのクラスに分け天的級という特権階級からのみ選ばれる」という教理を前提としています。しかしイエスは福音書の中で字義的に復活の希望の違う二つのクラスがあると教えたのでしょうか？

■ イエスのいわれた「小さな群れ」と啓示の「14万4,000人」を紐づける聖句はどこに存在するのか？

■ ヨハネ 10:16 「他の羊」とは大群衆でなく単純に異邦人のことではないのか？

また、わたしにはほかの羊がいますが、それらはこの囲いのものではありません。それらもわたしは連れて来なければならず、彼らはわたしの声を聴き、一つの群れ、一人の羊飼いとなります。

■ ヘブライ 11:13-16 イエス以前の僕たちは「地上への復活」ではなく「天に属する希望」を持っていたのではないのか？

<sup>13</sup> これらの人はみな信仰のうちに死にました。……<sup>16</sup> しかし今、彼らは、さらに勝った[場所]、すなわち天に属する場所をとらえようとしているのです。ゆえに神は、彼らを、[そして]彼らの神として呼び求められることを恥とはされません。彼らのために都市を用意されたからです。

■ 啓示 7:4-9 大群衆も144,000人も同じ天にいるのはなぜだろうか？ 適応が比喩的な意味であれば、なぜ144,000という数字のみが字義的なのだろうか？ 啓示の他の数字は全て比喩的である。

<sup>4</sup> …証印を押された者たちの数を聞いたが、それは十四万四千であり、イスラエルの子らのすべての部族の者たちが証印を押された。……わたしが見ると、見よ、すべての国民と部族と民と国語の中から来た、だれも数えつくことのできない大群衆が…み座の前と子羊の前に立っていた。

■ ヨハネ 3:3-6 肉体のままでは神の王国に入れのではないだろうか？ 地上の復活は別とイエスは教えていたか？

<sup>3</sup> きわめて真実にあなたに言いますが、再び生まれなければ、だれも神の王国を見ることはできません。……きわめて真実にあなたに言いますが、水と霊から生まれなければ、だれも神の王国に入ることはできないのです。<sup>6</sup> 肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊です。

■ ヨハネ 4:13 イエスはサマリア(当時は小さな群れ=天的には含まれていない)の女に何の希望を宣べ伝えのでしょうか？

天的希望でなければ、弟子たちにも教えていなかった地上の復活を教えていたのでしょうか？(少なくとも1935年までは存在しない教理)

<sup>13</sup> イエスは答えて彼女に言われた、「この水を飲む人はみな再び渇きます。<sup>14</sup> だれでもわたしが与える水を飲む人は、決して渇くことがなく、わたしが与える水は、その人の中で、永遠の命を与えるためにわき上がる水の泉となるのです」。

■ 統治体の助け手とされている「ネティニム級」だが、なぜ現代においてユダヤ律法の制度を適用させないといけないのだろうか？

(塔92 4/15 P12-17)

「書かれている事柄を越えてはならない」 コリント第一 4:6

## 1919年に選別？

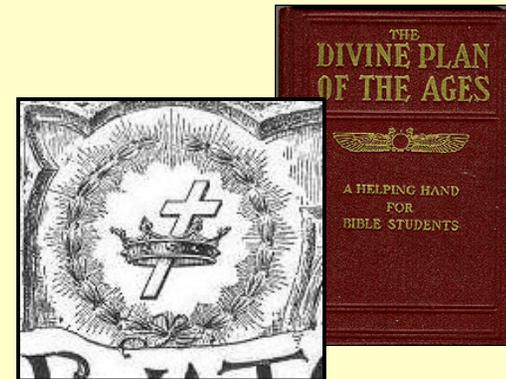
### ラッセル兄弟と奴隷級：

- 1世紀からずっと「時宜にかなった食物」を提供している「奴隷級」が存在しているはずである。
- ではなぜわざわざ1919年に「奴隷級」を選別する必要があったのであろうか？**
- プロテスタントは「奴隷級」なのか？
- ラッセル兄弟はどの奴隷級から真理(霊的な食物)を受けたのか？**  
⇒プロテスタントのミラーから教理を譲り受けた。
- ラッセル兄弟は聖書を研究して真理を得たのであれば、私たちも奴隷級はいらないのではないか？
- 最初に奴隷級という言葉 راッセル兄弟に適用したのは、後に排斥されたラッセル兄弟の妻である。
- ラッセル兄弟の死後、強引に会長になったラザフォード兄弟は自分の権力を確立するために「奴隷級」とはラッセル兄弟個人ではなく統治体というグループであると主張。
- しかしラザフォード兄弟は1870年代からのラッセル兄弟の仲間を「奴隷級」と認める事はしなかった。
- 1927年までラッセル兄弟以外の誰かを「奴隷」と認めた記録は出版物にない。
- ラッセル兄弟は1916年に亡くなったので1927年までの間の12年間、**奴隷級は不在**であった。

### バビロンから清められていた組織は1919年にイエスによって選別されたと主張するが...

証人たちはキリスト教会が下記のような事を行っているとして糾弾しているが、組織は1919年当時に下記を行っていた。

- 十字架**の利用(1931年まで使われていた)。
- クリスマス**(1926年においてもベテルで祝っていた)。
- たばこ、輸血**は当時禁止されていなかった。



1919年に選別された時点でこれらの背教的な要素は取り除かれているべきである。そうでなければ、イエスが1919年に他の宗教を捨ててエホバの証人だけを選んだ根拠はどこにあるのだろうか？

# 真理は絶対？

## 聖書を理解するためには...

- **聖書は誰のために書かれたものですか？** 全人類ですか？
- **モルモンは自分たちの教本を使わないと聖書を理解できないと主張します。**  
あなたはどのように思いますか？
- **ではエホバの証人の出版物を使わなくても聖書を理解する事は可能でしょうか？**
- **もし出版物が必要であれば、20世紀より前の人々、そして出版物を入手できない人類の大半は聖書を理解する事はできないのでしょうか？**
- **では歴史上、大半の人類が理解できない聖書は誰のために書かれたのでしょうか？**

## 矛盾のない教理とは...

- **アインシュタインが証明したとおり、3次元の世の中は全て「相対的な関係」においてなりたっています。**
- **相対的な世界の中で何か一つのことを「絶対的なもの」とみなす行為は信仰を求めます。** (例: この薬だけは絶対に効く。この教祖だけは正しい。お金だけは全てだ。) **これが宗教の下地です。**
- **信仰の対象となる「絶対概念」は「矛盾のない絶対的な教理」にもとづきます。**
- **矛盾のない教理は「矛盾する聖句の中から都合のよい聖句のみを「相対的に選定する」ことにより成り立ちます。**
- **従って「絶対的な教理」は相対的な選択の上になりたっています。**

## 人は信じたいものを見ます...

- **同じ聖書をつかって天国のみを信じる教団と地上への復活を信じる教団があるのはなぜでしょうか？**
- **二千年以上の歴史を通じて未だに聖書の解釈方法に決着がつかないのはなぜでしょうか？**
- **教理には本来根拠は存在しません。最終的には受け入れるか受け入れないかの選択肢です。**
- **教理ありきで聖句で証明しようとするため、最初から選定される聖句が決まっています。**
- **都合の良い聖句のみに焦点があてられ、都合の悪い聖句は無視されます。**
- **夜空の星座と同じで、星座ありきで星が選定されています。しかし他の星を結べば全く違う絵がでできます。**

## 先入観により見える絵は決まっています...

- **証人たちは出版物しか読まないため、聖書を自分で調べたような気になっていますが、実際には出版物のあたえる先入観をもとに聖句の適応方法を決め付けています。**
- **出版物の意見なしにあなたも聖句のみを調べて同じ結論に達する事ができますか？**
- **もし同じ結論に達しないのであれば、それは純粋な聖書の真理ですか？**



## 差別化のための教義

カルト教団の特徴にならない、他の教会から差別化を図るために大して重要でない教義に重きが置かれています。この差別化により自分たちが潔癖であると主張し、他の信条を持つ人々を断罪します。

### 誕生日

■ファラオとヘロデの二つの悪い例しかないので禁じられているといわれているが...

ヨブの息子たちは「自分たちの日」に宴会を催していた。

「そして、その息子たちは行って、自分の日に各々の家で宴会を催し...一緒に食べたり飲んだりした。」ヨブ 1:4

■伝7:1「死ぬ日は生まれた日に勝る」が引き合いに出されるが...

み使いたちはイエスの誕生の時に賛美しにきたが、イエスが死んだ時にはこなかった。

### 十字架

■他の聖書と違い新世界訳の教理ありきの訳し方は常に議論の対象となっている。

■ローマ人の刑法はT字かX字の十字架を用いるのが常であった。イエスはローマ人により処刑された。

ユダヤ人の処刑方法は石打ちであった(例:ステファノ)。

■「杭」が十字架を100%意味しないわけではない。また十字架のうち一本の杭をイエスは担がされた可能性も高い。

■杭であればイエスの罪状は「手の上」に掲げられたはずである。(手が頭の上にくるので)

「また彼らは、「これはユダヤ人の王イエス」と記した罪状を彼の頭上に掲げた。」マタイ 27:37

■実際問題、十字架であっても杭であっても教理上なんの問題もない。問題はなぜそこまで杭にこだわる必要があるのか。崇拜しなければよいだけで、イエスの購いの価値に影響を与える問題ではない。

### 乾杯

■乾杯が異教徒に起源を持つのであれば結婚指輪もネクタイも禁止されるべきである。

独身か既婚かを世の人に知らせるより異教徒の儀式に由来するものを身につける方が問題である。

又、ネクタイはもともと戦場へいく兵士のためのお守りであった。

「あなた方が裁いているその裁きで  
あなた方も裁かれることになるからです」マタイ 7:2

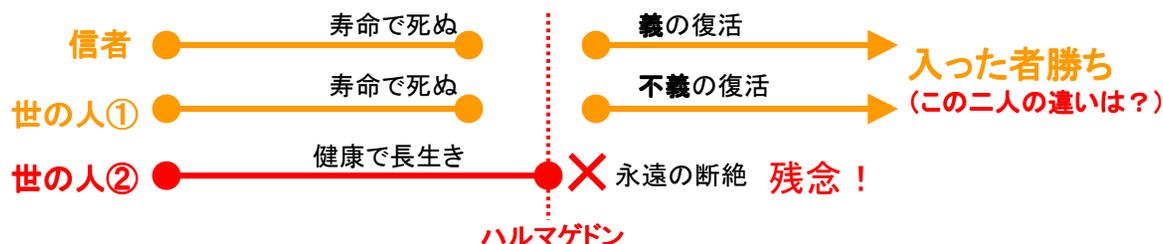
## 矛盾する教義

### 不義の復活

- 義と不義の復活があるのであれば、**証人にならなくても不義の復活で楽園に入る事ができる。**  
どうせ最終的なゴールは1000年王国の終わりなので、同じ楽園に入れた事に変わりはないと思われる。
- 一度真理を聞いてしまって拒絶するのであれば不義の復活の余地もないというが、そうであれば最初から「良いたより」を宣べ伝えない方がマシである。知らなければ不義の復活の見込みがあるからである。
- **証人たちが伝道をしなければすべての人は楽園に入れる。伝道とは羊を探す業でなく、山羊を滅びに定める業である。**

### 裁きはタイミングにより変わる？

- もし生きている間にハルマゲドンが来れば神の組織に属さない者は滅びるといふ。つまり不義の復活の見込みすらない。
- しかしハルマゲドンの前に死んでいれば不義の復活の見込みがある。
- であれば楽園に入れる入れないの**エホバの公正な裁きは**その人が死んだ**タイミングに左右される**のであろうか？



### 結婚しない復活者

「死人の中からの復活を勝ち得るにふさわしいとみなされた者たちは、めとることも嫁ぐこともありません。実際、彼らはもう死ぬこともないのです。彼らはみ使いたちのようなのであり…」 ルカ 20:27-36

- 復活しても結婚しないのであれば、楽園で子供をつくるのは生きてハルマゲドンを通るとされる現在の600万人の人々だけである。何十億という復活する大半の人々は結婚すらできない。
- 創世記 1:26にある「子を生んで多くなり、地に満ちて、それを従わせよ」という**神のご意志は結局千年王国でもサタンに邪魔されたまま完全に復帰されることはない。**
- もし死んで皆天国に行くのであればイエスのいわれた「結婚しない」状態は理解しやすい。

これらは楽園に入らないと理解できない事柄ですか？  
ではなぜ理解できない事で他の信条を持つ人を攻撃するのでしょうか？

## 平和な人々？

エホバの証人は他の信条を持つ人々を攻撃しないといいます。  
他の宗教のように人を殺したりしないといいます。自分たちは謙遜で平和を愛する者たちだといいます。

- 「世の人」は滅ぼされても仕方ないといいます。
- 特に同じ信仰を捨てた人間は滅びに値するといいます。⇒黙殺します。
- 霊的に死んだ人たちがいると主張します。
- 自分たちの教団以外は全てエホバによって裁かれて当然だと主張します。
- マザーテレサのような人もカトリック教徒なので義の復活には属さないといいます。
- しかし最終的には誰が救われて救われないかはエホバが決めることだといいます。
- それにもかかわらず自分たちの側につかないと危険であると断言します。  
本当にエホバが決めるのであれば勧誘する必要はないはずです。
- 毎日「早くハルマゲドンが来てほしい」と本気で思っています。(そのわりには温暖化による水没を恐れています。)
- 自分の子供が教育制度や仕事で惑わされる前にこの世の体制が去ってほしいと考えます。  
⇒ **自分の家族の都合の方が60億人の命よりも優先される思想です。**(超ネガティブ思考)

**エホバの証人は能動的に人を殺しませんが受動的に人を殺します。**

マタイ5:27の原則にのっとれば心の中でやった事は実際にやる事と同じです。

27 「『あなたは姦淫を犯してはならない』と言われたのをあなた方は聞きました。28 しかし、わたしはあなた方に言いますが、女を見つづけてこれに情欲を抱く者はみな、すでに心の中でその[女]と姦淫を犯したのです。」 マタイ 5:27

**もしハルマゲドン通過後、瓦礫の中でほとんど死にかけて人を見つけたらあなたは助けますか？**

**完全に無傷でないということは「エホバに守られなかった＝裁かれた人」なので放置死に値すると考えますか？**

エホバの証人はこの世に全く価値を見出しません。

「楽園行きバス」を待っている間の時間潰しにしかすぎません。

それではあなたがこの世に「今」生まれてきた理由はあるのでしょうか？奉仕するだけですか？

それならば最初から楽園で子供として生まれてきた方が楽なのではないでしょうか？

本当は聖書でなく教理がそういっているのではないのでしょうか？

## 奉仕は靈的な基準？

- 使徒 5:42 1世紀当時、集会は家で行われていました。「家から家へ教えた」というのはドアからドアへという意味ではありません。  
「彼らは毎日神殿で、また家から家へとたゆみなく教え、キリスト、イエスについての良いたよりを宣明し続けた」使徒 5:42
- ルカ 9:4 家から家にいったのではなく宿を探す指示である。  
「どこでも家の中に入ったなら、そこにとどまり、その後そこを去りなさい。」ルカ 9:4

- お金の寄付額は「自主的な寄付」なので匿名でします。奉仕時間も「自主的な寄付」ではないのでしょうか？  
**寄付時間を匿名で出さないのはなぜですか？**
  - 組織が奉仕活動の時間を把握しておきたいのであれば、寄付金と同じく奉仕報告を匿名で出せばすみます。  
■なぜ開拓者の名前を発表する必要があるのでしょうか？  
「あなたの右の手がしていることを左の手に知らせてはなりません。」マタイ 6:3
  - 開拓奉仕をやった方が一般的には「靈性が高い」という評価をされます。
  - 以前は正規開拓の基準が月90時間でしたが、経済的な負担を理由に月70時間に基準が下げられました。
- ⇒現在あなたは経済的な負担が増えていますか？（特に専業主婦である開拓者）  
そうでなければ同じ90時間を入れ続けていますか？
- ⇒もし来年組織が開拓奉仕の時間を50時間に引き下げたらあなたの奉仕時間も下がりますか？
- ⇒もし組織が開拓奉仕の取決めを無くすと発表したらあなたは何時間入れますか？
- ⇒なぜ「靈性の高さ」の基準が上下するのでしょうか？（靈性の安売り？）
- ⇒開拓奉仕の取決めは神の基準と関係なくたんに組織の都合ではないでしょうか？  
（例：会員獲得、数字による評価。会衆は営業所でありノルマがある。巡回監督に聞いてください。）
- ハルマゲドン時にイエスはあなたにこうと思いますか？  
「〇〇兄弟は最初の20年は開拓奉仕をやったけど、最後の10年は奉仕時間が足りなかった。毎月あと10時間ずつ多く奉仕にでていれば助かったのに…」

「靈の神」は人を「物質的」な行動基準によって計りません。

カトリックは靈性を寄付額で換算。エホバの証人は奉仕時間で換算。

## 増加は祝福？

### 組織拡大はエホバの祝福？

全ての小さな教団はカルト教団として始まる。最初に信者を獲得していかないといけないため強い結束力が求められる。そのため、自分たちより大きな宗教を攻撃する。マーケティング用語でいうと「差別化」にあたる。また小さな駆け出し教団なので布教活動に焦点をおく。カトリックのように大きくなると「Orthodox＝正当派」と名乗り布教活動をしなくても良くなる。

### 最初はどの組織・企業も急激に成長する時期があり、そのうち飽和状態になる。

組織の急成長はエホバの祝福とは関係ない自然な法則である。でなければ日本で会員の伸びが飽和状態だという事はエホバからの祝福が減ったという事なのだろうか？サタンが邪魔しているというが、そうであれば**なぜ最初にはエホバの祝福があって今はないのだろうか？**それともエホバはサタンに押し戻される事があるというのだろうか？どの時期にどの土地で、人が増えて(エホバの祝福)、人が増えないか(サタンの邪魔)、エホバとサタンの中で協議でもしているのだろうか？**エホバのどういうご意志があれば「サタンに邪魔されても良い時期」が決定されるのであろうか？**

### 考え方の矛盾：

- ノアの洪水ではたったの8人しか生き残らなかったのではないか。
- 大勢が属するカトリックはサタンに惑わされている証拠である。
- イエスは狭い門を通れといわなかっただろうか？
- 組織の予言が外れて人が離れると「ふるい落とされて選別された」という。



## 『人が少ないからこそ真の組織である。』

それなのに、世界中で同じ音信を宣べ伝えている教団としては

### 一番信者が多いことを真の宗教の根拠とするのは何故なのだろうか？

組織が拡大したら悲しみ、会員が減ったら「選別された」と喜ぶべきである。

「少ない」こそが正義ではなからうか。

### ダビデはイスラエルの人口の拡大を誇ったから罰せられた。

霊の神は物質の数字に重きをおかれない。組織の会員を数えて発表するとはエホバはどう思われるのだろうか？

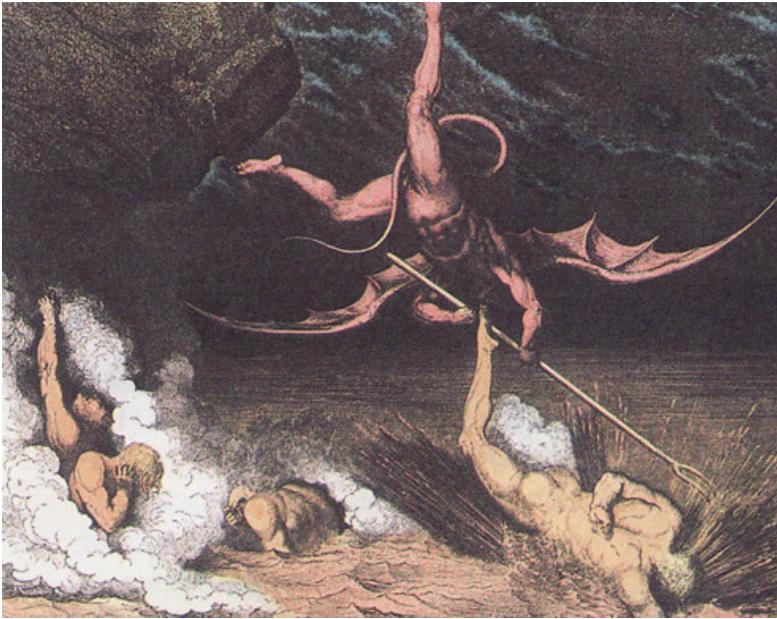
24 ときに、再びエホバの怒りがイスラエルに向かって燃えた。ある者がダビデを駆り立てて彼らに向かわせ、「さあ、イスラエルとユダを数えなさい」と言ったときのことである。<sup>2</sup>それで、王は彼と共にいた軍勢の長ヨアブに、「どうか、ダンからベエル・シェバまで、イスラエルの全部族の中を巡って、あなた方は民を登録してもらいたい。そうすれば、わたしは確かに民の数を知ることになる」。10 ところで、ダビデがこのように民を数えた後、その心は彼を打ちはじめた。そこでダビデはエホバに言った、「私は自分のしたことで、大いに罪をおかしました。それで今、エホバよ、どうか、この僕のとがを見逃してください。私は本当に愚かなことを致しましたので」。サムエル第二24:1

## 地獄からの自由？

証人たちは地獄の恐れから  
自由になったといいますが.....

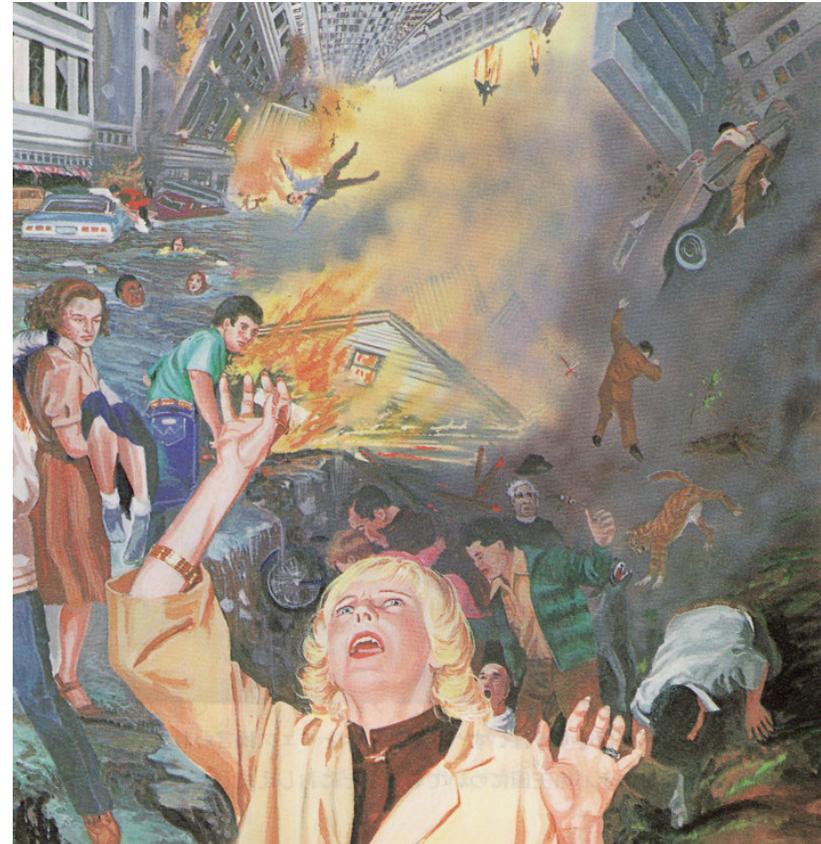


新しい恐怖を子供の時から  
洗脳されています。



### 変わっただけの束縛の対象:

- エホバへの献身 ⇒ サタンへの恐れ of 強調
- 偽りの教理からの開放 ⇒ 出版物への束縛
- 霊性の換算 寄付額 ⇒ 奉仕時間
- 様々な伝統からの開放 ⇒ 時間的な束縛(常に奉仕、集会)
- 世の人からの守り ⇒ 選民意識と仲間への依存意識
- 世界的な兄弟愛 ⇒ 世の人に対する恐れと侮蔑
- 霊的な喜び ⇒ ハルマゲドンへの恐怖心



あなたは何から何へ自由にされたのでしょうか？

# マインドコントロール①

## マインドコントロールをするカルトの八つの特徴 <http://www.jca.apc.org/~resqjw/watters/appendixc.html> からの抜粋

1961年、ロバート・リフトンは、中国共産党の支配する中国でのアメリカ人戦争捕虜に及んだマインドコントロールの効果を研究した後、そのテーマに沿ってもっとも信頼できる書、「全体主義の思想改造と心理学」を著わした。リフトンはその書の22章で、政治カルトや宗教カルトや心理カルトで用いられるマインドコントロールの8つの基準を概説する。

### ① 環境統制 (Milier Control)

批判的な考えを引き起こす元成員の作ったものならどのような本も、映画も、証言も、あるいは集団に批判的なものだったら、すべて忌避される。新しい加入者への**情報は母なる組織からそれぞれ細心の注意を払って与えられる**。彼らが組織の考えから取り残されないよう、また、組織に先回りしないように全員が監視される。

### ② 神秘的な操り

もし、何らかの理由で誰かが脱会するなら、彼らの上にふりかかる事故や病気は、常に神の罰のせいとされる。**天使は忠実な者のために常に働いている**と教えられ、彼らの内にどれほど神が実際に不思議なことをしているか風説が流される。なぜなら、それが「真理」だからだ。

### ③ 純粋性の需要

**この世は黒か白かしかない**。訓練された良心に基づいて個人的な決断をする余地はほとんどない。カルトの文書で教えられるように、カルトの指導は集団のイデオロギーに従って設計される。**カルトとの関係に従って、人でも組織でも、善良か、悪魔かに色分けされる**...すべてが分極化され、過剰に単純化されている...悪魔に区分されるものは、すべて、避けるべきものであり、カルトのイデオロギーへに熱中すれば純粋性が達成できる。

### ④ 告白のカルト

**組織が定めた重大な罪は、はっきりと告白されるべきだ**。もし成員が規則に逆らって歩んでいると分かれば、報告されなければならない。ほとんどの場合、告白をして自らの墮落から希望を引き出す傾向がある。

### ⑤ 「聖なる」科学

この**イデオロギーは疑いをはさむにはとても「神聖」**である。**指導者には尊敬が求められる**。どんな矛盾もない絶対的な真理であるかのように見せかけて、カルトのイデオロギーは、攻撃されるすきのない論理を所有するための大げさな主張を仕立て上げる。

### ⑥ 詰め込まれたことば

「考えを切り上げるきまり文句」の使用。たとえば、ものみの塔では、それ以上余計に考える価値の無いものにするため、「**真理**」や「**母なる組織**」、「**新しい体制**」、「**背教者**」、「**世的な**」のような表現を用いる。

### ⑦ 個人に及ぼす教義

**個人の経験は教義よりも劣っている**。カルトの歴史は、カルトの教義の論理に合うように変更される。個人はカルトの役に立つかどうかの鑄型に合っているときだけ、価値がある。

### ⑧ 生存の施し

カルトは誰が生きる「**権利**」を持つか、誰がそれを持たないかを決定する。悪魔に打ち勝つ義人の最終戦争に誰が滅びるか決めるのはカルトだ。指導者はどの歴史書が正確か、どの歴史書が偏向しているか決める。

## マインドコントロール②

### マインドコントロールの20の特徴 ⇒方法

- ① 絶対的な権威を持った存在。⇒本部や教祖
- ② 「真理」とされる教理・教義の存在。
- ③ 神と人間との唯一の経路と主張。
- ④ 信者を罪悪感と恐れにより呪縛する。
- ⑤ 信者と未信者の間に強い境界線を設ける。
- ⑥ 厳格な生活様式と多大な奉仕・貢献度を求める。
- ⑦ 神よりも組織に対する忠誠心に焦点が置かれる。
- ⑧ 信者は組織に対する本音・反対意見を隠したがる。
- ⑨ 個人の考え、組織に対する批判的な意見を抑圧する。
- ⑩ 厳しい規律を信者に求める。⇒乾杯、剣道
- ⑪ 他の宗教団体を攻撃する。
- ⑫ 組織から離れる行為は非常に困難で痛みを伴う。
- ⑬ 閉ざされた情報環境。⇒出版物のみで外の情報は遮断
- ⑭ ラベル行為(組織から離れた人を「背教者」「解脱者」等)。
- ⑮ 個人の存在より行動そのものが重要である。⇒奉仕が重要
- ⑯ 特定の奉仕行為を行う事により仲間からの愛が示される。
- ⑰ 聖句の意味を歪曲する。⇒書いてない事の解釈
- ⑱ 恐れにフォーカス。⇒常にサタンと惑わしの恐怖
- ⑲ 信者を教団から外すという恐れを取決め。⇒排斥
- ⑳ 世俗の教育は悪いか必要がないかのように見なす。

団体による洗脳はこれらの特徴を利用します。

#### 一番謙遜で傲慢な性格の人たち:

洗脳は家庭聖書研究を通じて1対1で長い期間をかけて、出版物の意向に沿うように**同じ質疑応答を繰り返し行い当人の考えを「調整」**してゆきます。自分たちは家の人に「心を開いて耳を傾ける」ように進めながら、自分たちは他の信条に耳を傾ける事はしません。割当や実演は組織からの詳細な指示によって内容・筋書きを決められており、個人の解釈による幅は最小限におさえられます(例: たんなる朗読の割当)。そして常に同じ信者同士で「励ましあう」事により見えない呪縛を強化します。**世界一致を望んでいるといいながら他の教団を断罪し分裂の一因をつくりだします。**家族愛を説きながら他の信条を容認しないため分裂を持ち込みます。未信者のご主人の稼ぎから寄付をしながら「改宗しないと謙遜じゃないから滅ぼされる」と世の人扱いします。他の信条も認めるとは口でいいますが、自分たちの信条を去った人間を「サタン」と侮蔑します。これは**神の名において人を裁くという聖霊に対する立派な冒涇です。**これが謙遜で柔和で義を愛すると唱えている人たちのやっていることです。

### カルト教団の20の特徴 ⇒結果

- ① 絶対的な教理を有し理解していなくても事も従うように求められる。
- ② 教理は全ての行動・言動の規範となり異論を差し挟んではならない。
- ③ 外の教団は神聖でないとし敵対視する。
- ④ 教団に対して外からの中傷・迫害などの陰謀・策略があるとする。
- ⑤ 個人の独自の考えがあってはならない。
- ⑥ 神によって選ばれているというエリート意識。
- ⑦ 常に神によって見張られており、罪悪感で信者を支配する。
- ⑧ 信者は自分自身よりも教団の権威を信用する。
- ⑨ 教団を離れると神から戒められると脅す。
- ⑩ 教団を離れる理由はありえないとし、仮に脱退すると「愛されていた仲間」からの怒り、憎しみ、中傷を受ける。
- ⑪ 与えられた任務に対して緊急感を抱き常に忙しい状態にある。
- ⑫ 世の終わりは近いが信者への報いは大きいと教えられる。
- ⑬ 「真理」はその時の状況に合わせて変化する。
- ⑭ 信者は仲間からの愛とサポートに依存しそれらを失う事を怖れる。
- ⑮ 家族愛。信者になると仲間からの是認・容認・賛美を得られる。
- ⑯ 同じ信者とのみと大半の時間を過ごすようになる。
- ⑰ 信者は同じようなしゃべり方、行動様式を持っている。
- ⑱ 教団の信条から外れると疎外される。
- ⑲ 信者は同じ信条を離れた「元信者」との接触を禁じられる。
- ⑳ 外面的でも喜びを常に表すように求められる。

JW以外の他のカルト教団にも見られる特徴です。

[http://www.geocities.com/Athens/Agora/3207/knowl\\_0.htm#](http://www.geocities.com/Athens/Agora/3207/knowl_0.htm#)

からの抜粋

### ■マインドコントロール

マインド・コントロールとは、自分の考えがなくなり、他の人の言うことが、あたかも自分の意見であるかのようにになってしまうことです。

一つ一つの教えは聖書に基づいていなくても、全体としては聖書の教えになる、などという理屈はどこの世界でも通じません。ところが、エホバの証人は別です。一つ一つは聖書的でなくても、全体としては聖書の教えになるのです。どうしてでしょうか。答えは簡単です。統治体がそう教えているからです。結局、エホバの証人は、聖書を信じているのではなく、統治体を信じているのです。

### ■誤った聖句の引用について

『知識』は、聖書の言葉をたくさん使って、ものみの塔の教えを説いています。しかし、その聖句の引用の仕方は、一般のルールに照らしても、まったく逸脱したものです。恐らく、これほどいいかげんな引用をしている書物は他にないでしょう。

聖書は、誰が読んでも理解できるものではないでしょうか。ものみの塔は、そうは考えません。聖書を解釈する特別な人が必要だと言います。ものみの塔の統治体です。はたしてそうでしょうか。パウロの手紙は、手紙を受け取ったすべての人が読んで分かったのではないのでしょうか。それとも、特別な人しか理解できず、他の人々は、理解できる一部の人々の解説を必要とした、とでも言うのでしょうか。決して、そんなはずはありません。パウロ自身がこう述べているではありませんか。

「実際わたしたちは、あなた方がよく知っていること、または悟りうること以外には、何もあなた方に書いていないからです。またそれは、終わりまであなた方が引き続き悟れるようであって欲しいと思う事柄なのです。」(Ⅱコリント1:13)

## 大抵の証人たちはこういいますが...

- 真の宗教は愛によって見分けられる。  
⇒ 一般の人(親族、近所、同僚、世間)はエホバの証人だけに愛があるとは認めていますか？
- 実によって見分けられる。  
⇒ 一連のスキャンダルやオカルト要素はエホバの霊を反映していますか？(JW解約①②③を参照)
- 一件づつ世界中に宣べ伝えているのは組織だけである。  
⇒ 創価学会もモルモンも熱心に宣べ伝えています。家を一軒づつ回るかは「方法論」の違いです。世界中というならカトリックの方が音信を確実に全ての国に広めました⇒三位一体。まず最初に一番重要なのは「何を述べ伝えいるか」ではないでしょうか？
- 理解できない事があっても組織への従順さと謙遜が一番重要。  
⇒ エホバは直信の信仰を求めているということでしょうか？理性を持って弁明できますか？
- 奴隷級がエホバに対して責任を負っているの、教理が一時的に間違っていたとしても信者は責任を問われない。だから細かい矛盾点をいちいち掘り下げる必要はない。  
⇒ だとしたらアカンの罪に対してイスラエル全体が「連帯責任」を負ったのはなぜでしょうか？背教した祭司についていったユダヤ人も裁かれて流刑されたのではないのでしょうか？ナチスの指導者たちはヒトラーに従ったということで戦争犯罪の判決を免れますか？
- 組織の人間は不完全だから時に間違いを犯すことはある。預言者ではないから当然だ。  
⇒ 人間的な間違いはあるかもしれませんが、神の言葉に関して間違った教えを教えるのであれば、他の教会と何が違うのでしょうか？預言者でなければ靈感の助けは本当に来ているのでしょうか？
- エホバはいずれは全てを正されるのでエホバの時を待つ。  
⇒ だとしたら他のキリスト教団もいずれは清められるのではないのでしょうか？
- 今は理解できないことがあっても組織に対する信頼が大切。  
⇒ あなたは一体「何を理解」して組織を信頼しているのでしょうか？
- なんであれ最終的には組織を受け入れるか受け入れないかである。  
⇒ これは「真理・真実」の問題ではなくて「趣向性」の問題ですか？好きか嫌いかの感情論ですか？

奴隷級を信頼しているあなたの根拠は何ですか？

## もしある人がこういたら

うちの会社は最高である。皆、自己犠牲的であり仲間意識も強い。誰が見て我が社が最高で、他の職場は最悪に決まっている。うち以外の会社はみんなイジワルでウソつきだ。

うちの家族は他のどの家庭よりも家族内での愛が一番強く最高だ。他の家庭は愛もなく不幸に決まっている。どうせ不倫で家庭崩壊だろう。

私は世の中で一番模範的な生徒だ。毎日正しいことをしている。学校で掃除をしているし、人にも親切だ。先生に対しても一番従順なので、他の生徒は皆ダメな子ばかりだと思う。

私は一番正しい信仰を持っているので、私の信条に同意してくれない人は神から嫌われるに決まっている。

そいつは鼻持ちならない傲慢で義に過ぎた奴だと思いませんか???

当人が主観的にそう主張していればそれは事実なのではないでしょうか？

あなたの宗教団体は同じことを主張していませんか？

### 質問箱

■ 聖書の調査や討議を行なうために証人たちが独自に作った様々なグループを、「忠実で思慮深い奴隷」は認めていますか。—マタ 24:45,47。

いいえ、認めていません。しかしながら世界各地で、わたしたちの組織に交わる少数の人たちが、聖書関係の論題を独自に調査するグループを作っています。聖書のヘブライ語とギリシャ語を独自のグループで研究して「新世界訳」の正確さを検証する人たちが、聖書に関係した科学的な論題を探究する人たちがいます。その人たちは、意見交換や討議のためにウェブサイトやチャットルームを立ち上げています。また、会合を開き、出版物を発行しています。自分たちの発見を公開し、クリスチャンの集会や文書を通して備えられているものを補足するためです。

世界中のエホバの民は、会衆の集会や大会で、またエホバの組織の出版物を通して、霊的な指示や励ましを十分に受けています。聖霊の導き

や真理のみ言葉により、エホバは必要なものを備えておられます。それは、神の民すべてが「同じ思い、また同じ考え方でしっかりと結ばれ」、「信仰において安定した者」であり続けるためです。(コリー 1:10。コロ 2:6,7) わたしたちは、この終わりの日におけるエホバの霊的備えに本当に感謝しています。「忠実で思慮深い奴隷」の監督のもとで制作もしくは組織されたのではない、いかなる文書も、集まりも、ウェブサイトも、その「奴隷」は認めていません。—マタ 24:45-47。

良いたよりを支持するために思考力を用いたいという願いは褒められるべきものです。とはいえ、イエス・キリストが今日の地上の会衆を通して成し遂げておられる事柄から、個人的な探究によってそらされてはなりません。1世紀に使徒パウロは、「系図」など、心身を疲れさせ時間を奪う論題にかかわることについて警告しました。「そうしたことは結局のところ何にもならず、調べるための問題を出すだけで、信仰に関連して神

からのものを分かち与えることにはなりません」。(テモ— 1:3-7) クリスチャンは皆、「愚かな質問や系図や闘争、また律法をめぐる争いからは遠ざかって」いなければなりません。「これらは無益であり、無駄なことなのです」。—テト 3:9。

聖書の研究や調査を余分に行ないたいと思う人は、「聖書に対する洞察」、「聖書全体は神の靈感を受けたもので、有益です」といった本、あるいはダニエル書やイザヤ書や「啓示」の書の預言を扱った出版物などを研究できるでしょう。こうした出版物には聖書の研究と黙想のための資料がふんだんに含まれており、わたしたちはそれらを活用して、「あらゆる知恵と霊的な把握力とにより、神のご意志に関する正確な知識に満たされ」ます。「それは、[わたしたちが]あらゆる良い業において実を結び、また神に関する正確な知識を増し加えつつ、神にじゅうぶん喜ばれる者となることを目指してエホバにふさわしい仕方です。—コロ 1:9, 10。

## 組織はこれらの聖句を否定します。

「二人か三人がわたしの名において共に集まっているところには、わたしもその中にいるからです」。マタイ18:20

「さて、[ここ(ベレア)の人たち]はテサロニケの人たちより気持がおおらかであった。きわめて意欲的な態度でみ言葉を受け入れ、それがそのとおりかどうかと日ごとに聖書を注意深く調べたのである。」使徒17:11

聖書のみから同じ結論に達しないのであれば、それは本当に聖書からの真理といえますか？

あなたは仲間と共に聖書に関して調べるだけで審理委員会にかけられる根拠となります。

## 異端審問？

- 初期のラッセル兄弟の時代は聖書研究者はそれぞれの教会に通いながら、聖書に関する自由な討論をするために自主的に集まっていた。
- 組織はカトリックなどのキリスト教会が聖書に根拠がない教理を教えているとし、それらを受け入れない信者に過去において異端審問を行ってきたと糾弾している。
- ところが組織内で聖書に関する自由な討論をしようとするすると背教扱いされる。
- 背教の疑惑がかけられると関係者を特定するために「魔女狩り」が始まる。
- 出版物の内容を100%受け入れないと審理委員会という名のもとに「異端審問」にかけられる。
- 組織の主張を100%受け入れないと、「神の名において裁かれ」て排斥される。
- 排斥者は「サタンに惑わされた」背教者という扱いをうける。



他の宗教と違い、自由に聖書を研究する人たちの集まりであったはずですが  
少しでも出版物と違う発言をすると背教扱いされ異端審問にあいます。

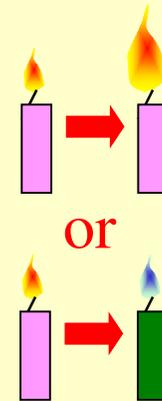
**真理により本当に自由にされたのでしょうか？**

イエスですら地上に人を裁きにこなかったのに、裁きの日より前に人を神の名において裁く行為はエホバと聖霊に対する冒瀆ではないでしょうか？

組織は「**光が増す**」につれて教理は常に修正されると主張します。  
しかしそれは一つの事柄がより詳細に分かるようになったという意味です。

もし新しい理解が以前の教理を覆すようであれば、それは「**新しい別の光**」であり、  
『**光のすり替え**』にしか過ぎません。

例えばというと、暗闇で光が徐々に明るくなるにつれてある人影から人の顔がよりハッキリと見えてくるのが「光が増す」という意味です。もし明るくなるにつれ「今度は人物でなく車が見えてきた」というなら、明らかにその人はただの**盲目**でしょう。  
それでは今までの組織の教理の変更内容は「光が増した」結果ですか？それとも「**違う光**」ですか？



**明らかに違う光である教義の変更:**

- 輸血は一切禁止 ⇒ 特定の血の成分であれば良い。(ショートケーキを食べてはダメだが、クリームをとれば食べれる?)
- 一世代のうちに終わりが来る ⇒ 世代とは時代を指す。(結局分からないのであれば終わりは近くないのではないか?)
- 1935年に天的級は集め終わった ⇒ 実はまだ完結していない。(初穂が集め終わっていないのであればあなたは何者?)
- 「啓示の本」の解釈の大幅な訂正リスト。 ■ 常に変更される不義の復活に含まれる人の定義。 ■ 北と南の王は結局誰?

今の真理は10年後には真理ではないのであれば  
あなたは現在何を信じているのでしょうか？

## 神と宗教とあなた

神への信仰は本来個人の**主観**によってしか体験できないものです。宗教とは神との体験を組織的に画一的な基準で定義しようとする試みです。人が集まり組織を成すと必ず共有されるべきルールが設置されます。教団ができあがると

「ルール＝教理、規律、儀式」により**客観的な同じ方法で神を体験するように**方法論を押し付けられます。

従って人が感じる「神との体験方法」を宗教は強制的に定義しようとします。あなたの宗教はあなたと神の間に組織を置かないといけないと主張しますか？あなたの忠誠心は「神」に対してですか？「組織」に対してですか？

神と組織の存在が同等ということはありませんので、どちらかが優先されます。では**組織の主張と神の主張に食い違いがあった時はどうしますか？**いずれは神が正しますか？そうであれば他の教団も正されるのではないのでしょうか？もしそうならあなたの信条・教団が他の人の信条・教団より勝っているという事はありえますか？ないのであれば「人を救う布教活動」という考えはおこがましい考えではないのでしょうか？真の平和は多様性を認めるところから始まります。

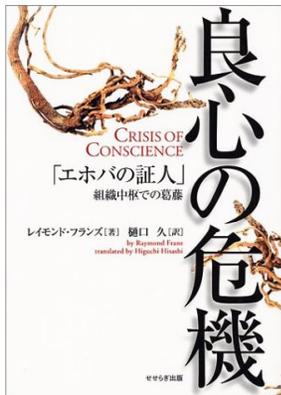
アーメン

## さらに詳しい情報①

エホバと真理を愛するクリスチャンは**自分の属している教団が神の教えから反れていないか確かめる義務と権利を有しています**。あなたは伝道の時に家の人々に、「自分の入っている宗教の真偽を自分の教団以外の資料を通じて調べる」ように勧めています。あなたも自分の組織に対して同じことをするべきではありませんか？

### 組織とエホバへの愛は別です。あなたは自分の組織を検証しますか？

あなたは組織を愛しているかもしれませんが。しかしエホバへの愛と組織への愛は全く別の次元の話です。兵隊もヤクザもサラリーマンもそれぞれ自分の組織を愛しており恩義を感じるというかもしれません。**一番大切なのはその組織が聖書の教えに忠実であるかどうかです**。良い仲間が沢山いるという事と組織が聖書に忠実であるかは全く別の話です。



アマゾンで購入できます。

### ■良心の危機—「エホバの証人」組織中枢での葛藤 超お勧め！

レイモンド・フランズ <http://tinyurl.com/27qpw8>

元統治体として執筆部門の監督をしていた兄弟の経験談。統治体がどのように聖書を調べて組織上の取決めを決めていくのかを説明。また1914年説に常に揺らぐ統治体の会議の様子なども描写している。あなたが持っている出版物も彼によって書かれたものが数多くある。

### ■Jehovah's Witnesses: Their Claims, Doctrinal Changes, and Prophetic Speculation.

Edmond C. Gruss <http://tinyurl.com/ytsclv>

常に外れる組織の予言、組織の無責任な教義の変更を全て過去の出版物から検証。

### ■Apocalypse Delayed: The Story of Jehovah's Witnesses

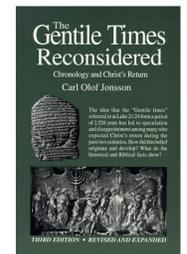
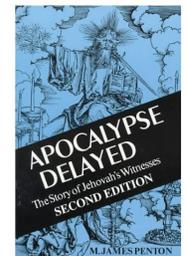
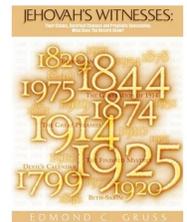
M. James Penton <http://tinyurl.com/yu92xg>

「世の終わり」の予言の適用は中世期から常に行われてきた。ラッセルの教義の由来を探る。

### ■The Gentile Times Reconsidered

Carl O. Jonsson <http://tinyurl.com/2usrkf>

どの考古学資料も「1914年の起点となる西暦前607年」の間違いを示している事を検証。



上記の3冊は英語のみですが、主立った点を日本語に要約している冊子があります。Amazonでは買えません。こちらです⇒ <http://www.jesuscom.net/helpcult/book.htm>

### ■目ざめの時！ 統治体が強調する「1914年の予言」にテーマをしぼり検証している。 お勧め！

■目ざめの時！2 「エホバの証人」が絶対的忠誠を誓う彼らの組織が、成就しなかった予言を巧妙に隠し教祖崇拜・派閥主義に走る実態を明らかにする。 お勧め！



## さらに詳しい情報②

ものみの塔を含めて全ての宗教団体動かしているのは「神の意志」ではなく、「**組織の存続**」の原理です。

人は一つの目的のために組織を結成します。しかし一旦組織を結成した目的が達成されると組織を解体するよりも存続させる方法を考え始めます。戦後に洗濯機を普及させようと松下電器が設立されましたが、洗濯機が普及したからといって10万人の社員を解雇できないのとは同じ理由です。興味深い事にイエスもお釈迦も自ら本を書いたり教団を設立することはありません。むしろ**現存する体制を否定するために**自ら一人だけの道を歩んだのです。それに続いて弟子たちが本を書き、教団やルール(教理)をつくりました。時がたつと教祖の真理を探究するといいつつ、教団の存続のための権威づけに労力を注ぎ込むこととなります。**あなたの組織は「聖書の真理」を追究していますか？それとも「組織の存続、権威の維持」ですか？**

### ●エホバの証人情報センター ★★★

[http://www.jwic.com/home\\_j.htm](http://www.jwic.com/home_j.htm)

組織の歴史とJW事件にかなり詳しいのでかなりお勧め。上級レベル。

### ●レイモンドフランス経験 ★★★

<http://www.jwic.com/franzbio.htm>

元統治体の経験。「良心の危機」の要約版。

### ●ランダル・ワーターズ経験 ★★★

<http://www.stopover.org/lib/translation/testimony.html>

### ●エホバの証人Q&A / JW関連サイトリンク集 ★★★

<http://www.geocities.co.jp/Bookend-Soseki/8769/index.html>

少々個人的な内容よりだがフェアな視点である。リンク集は便利。

### ●昼ねするぶた ★★★

<http://buta.exjw2.org/index.htm>

世に及ぼしう影響の深刻さを物語る体験。役に立つ情報あり。

### ●StopOver やめたい人のサイト ★★★

<http://www.stopover.org/>

### ●真理のみことば伝道協会 ★★★

<http://www.geocities.com/Athens/Agora/3207/index.htm>

聖書から推論する助けになります。中級レベル。

### ●エホバの証人の夫たち ★★★

<http://www.jca.apc.org/~resqjw/index.html>

かなり突っ込んで各トピックを扱っています。上級レベル。

役に立つ資料のっています。中級レベル。

### ●インナーチャイルド・カウンセリング ★★★

<http://f23.aaa.livedoor.jp/~jwqa/jwalbum/ipc/top.htm>

### ●JWの世界統計

[http://www.jwic.com/stat\\_j.htm](http://www.jwic.com/stat_j.htm)

熱心に統計を調べてくれてありがとう…。日本人は奉仕の効率悪いです。

### ●ものみの塔の終焉 天的級について ★★★

<http://www.stopover.org/lib/Kanazawa/Shuen/index.html>

天的級に関して深く論証。

### ●14万4000人とはだれのことか ★★★

<http://www.geocities.com/Athens/Agora/3207/144000.htm>

### ●新世界訳聖書の改ざんと評価 ★★★

<http://www.stopover.org/lib/Kanazawa/Kekkan/index.html>

<http://www.geocities.com/Athens/Agora/3207/nwt.htm>

かなりマジメに検証してあります。

### ●1975年問題 ★★★

<http://www.stopover.org/lib/Kanazawa/Shuen/chapter09.html>

過去に組織が外れた予言をどのようにかわしてきたか。

組織には病んでいる人が多いです。興味深い資料。

### ●WTMJ資料館 過去の教義の変更 ★★★

<http://www.jesuscom.net/helpcult/data.htm>

過去の教理変更の証拠資料が大量です。英語多いです。

### ●赤石さんはどうなったか？ ★★★

<http://www.d2.dion.ne.jp/~majinbuu/money/money.htm>

少し昔の話ですが興味深いです。

### ■ものみの塔の歴史 - ビデオ(英語) 59分

<http://video.google.com/videoplay?docid=6861723185926041712>

### ■フランス兄弟の公演 - ビデオ(英語)

<http://www.youtube.com/watch?v=5nqwdHFnKBU>

### ■幼児虐待報道 - ビデオ(英語)

<http://www.youtube.com/watch?v=c0bffqYBO2w>

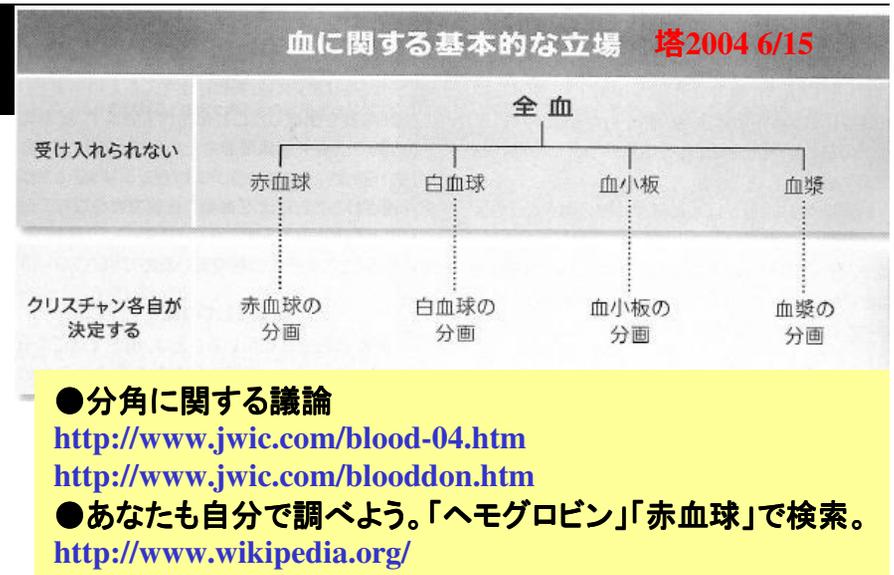
### ■幼児虐待報道CBS - ビデオ(英語)

<http://www.youtube.com/watch?v=XhJuUkFclpg>

## 付録①輸血

輸血に関しては様々な議論がありますが、それは奴隷から出た教理の一つにしかすぎません。従って「奴隷級の権威の正当性」の議論の方が重要となります。しかしつっこみどころ満載なので簡単につっこんじゃいます。余計な議論ですが...

■組織は輸血を禁じていますが、**成分を分ければ「良心的にOK」と**しています。**ケーキは食べたらずダメだけどクリームを取ればOK**みたいな発想です。問題は医学的にどのように成分を分けたら良心的にOKなのか議論が沸きあがります。ここまできると医者にもならないと一般信者には判断できない議論となります。



エホバの証人の定義に沿って考えるのであれば、私の考えは簡単に決着がつきます。(素人発想ですが)

『**遺伝子を含む成分か、含まない成分かで分ける**』です。

赤血球のように細胞として核(DNA)を含むものはアウトで、水分やビタミン成分のみの抽出であればOKです。このことは、当然ながら「水分やビタミン成分」のみを他人から抽出して利用しても副作用は起きない事からも分かります。一人一人に**特有の成分**を輸血した時にのみに弊害が起きるわけです。遺伝子と血に関しては聖書にあるエホバの血に対する認識から分かります。

■エホバは血統を最重要視しておられた。輸血は他人の遺伝子を取り込む行為なので、遺伝子を純粋に保つことができない。もし輸血をして自分自身が疾患を抱えて、仮にそれが子供に遺伝したと仮定した場合、当人は自分の血に対してのみ責任を負うことができなくなる。(同じ理由で一夫多妻は許されていたけど姦淫は禁じられていたのだろう...(汗))

■そもそも「血=命」なので、その命に特有な特質・性質を決定づけるのは遺伝子である。

問題の本質はここにあると思うのですが、統治体は医学的な『言い訳の説明』に走ったために、反対者から刺される議論に足をつっこんでしまいました。逆に信者は「つっこみたい」と思いつつも、自分の命を延命できる裏口が提示されたので内心ホッとしていると思います。証人たちが積極的にこの事に関して議論することはないでしょう。

**いずれにせよ、あなたが輸血拒否で死んだとしても、組織は裁判に訴えられないように策を講じています。**

■出版物の文字の上では「全て良心的な決断」として輸血拒否を迫るような文字の証拠を残しません。

■輸血カードのサインは集会では行わない(以前は集会で一斉に輸血カードをサインさせていた)で、個人が勝手に独自の判断で家で記載したと主張できるようになっています。

**将来、組織が教義を変更すればバカを見るのはあなた自身です。**その兆しはすでにでています... ⇒次のページ

### ヨーロッパ人権擁護委員会の発表した内容

- KHRISTIANSKO SDRUZHENIE "SVIDETELI NA IEHOVA" (CHRISTIAN ASSOCIATION JEHOVAH'S WITNESSES)  
v. Bulgaria (Application No. 28626/95)

The case concerned the refusal to re-register the applicant association pursuant to a 1994 law, and the alleged suppression of its activities and those of its members. In settlement, the Government agreed to introduce legislation as soon as possible to provide for civilian service for conscientious objectors, as an alternative to military service, and to register the applicant association as a religion.

**The applicant undertook with regard to its stance on blood transfusions to draft a statement for inclusion in its statute providing that members should have free choice in the matter for themselves and their children, without any control or sanction on the part of the association.**

**ブルガリヤでは信者に無輸血を強要しないことを条件に宗教法人の認可を申請しています。**

<http://www.jwic.com/n012298.htm>

<http://www.jwic.com/n042298.htm> より抜粋

旧共産国であるブルガリア政府は、最近ものみの塔協会の、エホバの証人を公認の宗教団体として登録する申請を退けました。このため、ものみの塔協会は、ヨーロッパ人権擁護委員会に対して提訴し、ブルガリア政府に対してエホバの証人を公認の宗教団体として登録するように訴えました。ブルガリア政府は、エホバの証人の登録を拒否する理由として、彼らの宗教活動のいくつかの問題点、たとえば子供の教育に対する影響、「神の法」の前には違法行為もする可能性のあること、兵役拒否などを上げていますが、その中で、輸血禁止の教義にもふれ、生命を尊重しない教義であり、公衆の健康と安全を損なう恐れがある宗教であると述べています。これに対し、**ものみの塔協会の提出したヨーロッパ人権委員会への提訴では、協会は「輸血を受けることを選ぶエホバの証人に対しては宗教的制裁措置は行われぬ、したがって、輸血に反対する教義が『公衆の健康』に対する脅威となるということはありません」と訴えています。**

……ものみの塔協会はこれを機会に、輸血禁止の教義をなし崩しにしていこうという姿勢を見せているのかもしれませんが、最近、協会幹部は、世論の輸血禁止の教義に対する批判を和らげるために、「輸血拒否は個人個人で決める問題である」との発言を非公式に行っています。したがって、一部に予想されている、近い将来の輸血拒否の教義の変更に対する伏線として、このような訴えを行っている可能性は考えられます。

**疑問：なぜ協会はナチスに対して行ったのと同じように断固とした態度をとらないで、輸血に関して妥協してまで申請を行っているのだろうか？**